

田村

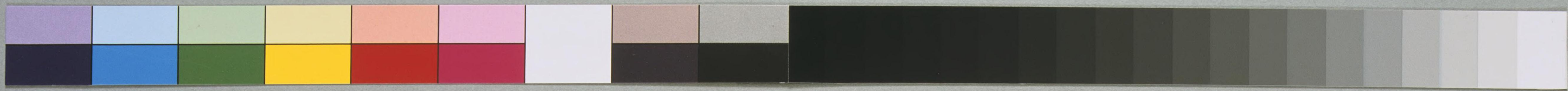
観世流謡曲 元和卯月本

39-001

39 田村

国立国会図書館





第
 此乃都路陽てきく九
 室のきよさうを是は東國
 明ぶわの僧とて人新末
 都を以てんとほとま此てる界
 立てん比もわはまふりて乃
 喜乃やん影も長閑なり
 日此のまもさうるや音羽山龍の





響も静るる清水寺よ
 きりく 白
 清高寺とやきこも果ある
 桜乃感とみしてらんをまらて
 かくしを亭とやとげれ
 どのつしき乃平向と成よ
 地主権現の花らり 支花乃

名前をほしこへとも大悲のえ
 下知ふ故る此寺乃地主の櫻子
 志くしあしらまきしよあ大慈大
 悲乃まの華下零乃らとよ
 かつりしこ二十三年の秋月
 五写乃水子影さよ 千早
 振袖のし底を雪あお 白妙子



らして花さりぬざれし行惠座

あつたは是観音菩薩壇乃し其証

又檀那をまそと有し中こき

坂乃この田村死上三音の故も其名子

あつたたる清名乃し深寺ち

つひも故くよ子平た清乃

そち極の押あまねくて

國去萬丈をもちら乃だ悲の

つゆう乃難寺乃あまを乃

と此坐乃示現乃て乃

た乃乃観世音乃あ乃も乃

あ乃し乃を乃面白乃人

よ乃あ乃あ乃又乃見乃た乃

あ乃い乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃

包しや雲霄一刻ありて
清音月子つ希 下 刻子千金
よもつへしとつ返この時
下 地 ありく面白く地まき華の氣
色あふ櫻枝木のまよもる月乃
言もあふ長あしらるる花と
つきて散り心ある覺 色 らるる

みりや花乃まこのまら
空射りあふまほし青陽の陰
見とらふそつ勢長田成音羽乃
就乃志し急乃くわせつへし
ても面白く有難やふ地ま枝現
乃花のつちもことあり 上 頼め
標茅厚乃らしめら我母乃子



あゝかきりひ乃湯誓飲湯
物と清ありみりもらすも青
柳乃きりも結する女ありも
花らく女乃よりほしりく乃
るもをいりて長おま影と
る月乃天も花よえりや面白の
ま入やあゝ面白乃るるわ

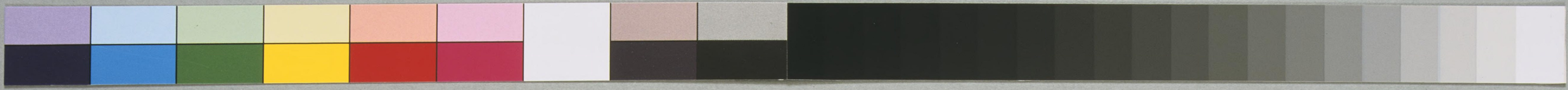
^{上三三}定や氣色をさるのりよ只人
あゝね粒乃具名ある女乃覺
いりりいりやち名もさる雪乃
法をりま、此寺子路家るを
少後せよ、歸るや所くあ
ま乃まらるるはとりきあ乃
たつまもあや甲よ花はらる

あつても思ひ給ひ我の心を
況もやそ地を柱現の前の
びふしとせしりくもあはれ
坂乃この回村堂の行もあ月の
山くを押しあがてらまはれ
給ひまきり心陣に入を給ひ
おむすくも桜乃かをり

あつても思ひ給ひ我の心を
況もやそ地を柱現の前の
びふしとせしりくもあはれ
坂乃この回村堂の行もあ月の
山くを押しあがてらまはれ
給ひまきり心陣に入を給ひ
おむすくも桜乃かをり

人藝を悲乃親音擁護乃結縁を
かまわな花乃出りよのりやそ
野崎乃くのみをけりよハダ
んまきまきまき
あまをりつをへま仁王五十一代
平城大皇乃清宇よる一坂乃
し乃田村丸東夷をたしる命を

魔を去らめ天下泰平乃忠勤
たしるももあしち高寺のゆり也
あつし君乃宣方よ誓明す
か乃あまを去らめ却部安全よ
あまへしころちほきよあつて軍
兵をこの院よけし時節よ
しるて此観音乃仏前よあ



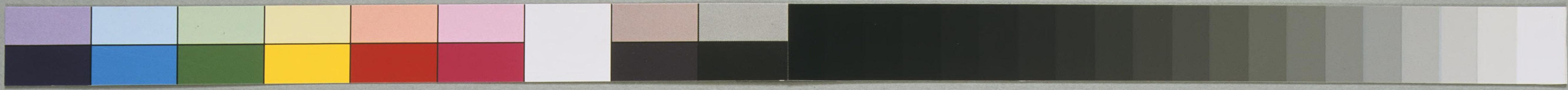
観世流謡曲 元和卯月本

39-016

39 田村

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

39-017

39 田村

国立国会図書館

